

放射線治療は、手術、化学療法と合わせて「がん治療の三本柱」の一つと位置付けられている治療法です。がん細胞に強力な放射線を当てることで治療をしていきますが、正常な細胞に副作用が起これないように、一日1回、少しずつ毎日続けるのが特徴です。

治療の回数のがんの種類、治療する部位、目的などによって様々で、少ない場合は数回程度、多い場合は30回以上になることもあります。放射線は目に見えませんし、身体に浴びても何も感じませんので、治療中は検査を受けるときと同じようにじっと寝ているだけです。1回の治療は15分程度ですから、通院で治療を受けている患者さまも多いです。放射線が強く当たっている部位には副作用が出る場合がありますが、ほとんどの場合は一時的な症状ですので、治療が終わってしばらくすれば治ります。放射線が当たっていない部位には副作用は起こりません。

緩和ケアにおいても放射線治療は重要な役割を持っています。がんによって引き起こされる様々な症状、特に骨転移による痛みには放射線治療が有効であることが多く、苦痛を和らげることで患者さまがより充

実した毎日を送れるようお手伝いしています。鎮痛薬のような即効性はありませんが、薬が効きにくい持続性の痛みにも効果がありますので、それぞれの特長を活かして併用していくのが上手な放射線治療の使い方です。

放射線治療科の窓口には、主治医の先生または緩和ケアチームを通してご相談いただく必要があります。痛み以外にも、神経のしびれ、出血、息苦しさなど、がんによる症状であれば何でも臨機応変に対応していただきますので、つらい症状を我慢して過ごすのではなく、ぜひ担当の医療スタッフに相談してみてください。



緩和ケアチーム 放射線科医

放射線治療科「痛みを緩和する放射線治療」

痛